

1. 科目名 (単位数)	人体の構造と機能及び疾病 (2単位)	3. 科目番号	GELA1112 GELA1333 GELA1312
2. 授業担当教員	横田 俊平		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに意見発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	特になし		
7. 講義概要	<p>この講義は、総合社会科学としての医学の側面についても触れ、生活の質 (QOL) を豊かにする保健・医療・福祉・心理のあり方についても学び、福祉専門職者・心理専門職者として要求される最低限の医療、医学の知識の習得を目標とする。さらに、最新の健康情報の検証も行う。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達・老化や日常生活との関係を踏まえて理解する。</li> <li>●生活習慣病とその予防について、健康増進の正しい方策について理解する。</li> <li>●国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要について理解する。</li> <li>●リハビリテーションの概要について理解する。</li> </ul>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解する。</li> <li>2. 健康・疾病の捉え方について理解する。</li> <li>3. 人の身体構造と心身機能について理解する。</li> <li>4. 疾病や障害の成り立ちおよび回復過程について理解する。</li> <li>5. 公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を理解する。</li> </ol>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p><b>宿題:</b> 各宿題は、A4判、横書き、明朝体 10.5ポイント、2ページ (1ページあたり 40字×39行) にまとめて下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ヒトの動物器官系の構造と機能について記述してください。(テーマ6終了時に提出すること)</li> <li>2) 高齢者の認知症、高次脳機能障害について記述してください。(テーマ13終了時に提出すること) :</li> </ol> <p><b>レポート課題:</b> レポートは、A4判、横書き、明朝体 10.5ポイント、3ページ (1ページあたり 40字×39行) にまとめてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 感染症及びその歴史について : (テーマ10終了時に提出すること)</li> </ol> <p>【参考書】福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 (1) 『人体の構造と機能及び疾病』 (第3版) 中央法規</p> <p>【参考書】三木成夫 『ヒトのからだ (生物史的考察)』 うぶすな書院</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新・社会福祉士養成講座 精神保健 福祉士養成講座 1 医学概論』中央法規</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心身の機能と身体構造を自分の体と日常生活に照らし合わせてできるようになったか。</li> <li>2. 生活習慣病の理解と予防を考察できるようになったか。</li> <li>3. 少子高齢社会におけるリハビリテーションを理解し、必要性を説明できるようになったか。</li> <li>4. 厚労省が推進する高齢者の QOL の基本的な考えを理解できるようになったか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>[授業への積極的参加度、日常の受講態度や学習状況、レポート、期末テスト等を総合して評価する。授業への参加度 30%、レポート 30%、期末テスト 20%、発表能力 20%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>わが国はすでに少子高齢化社会に突入しており、養護、保健、福祉専門職者は無論のこと、また、教育や保育、臨床心理専門職者においても、看護、リハビリテーション、医師など医療専門職者と連携して地域社会の人々が健康で質の高い豊かな生活が送れるように支援することが求められています。そのためには人の命についての深い洞察力と人体についての実践的かつ多彩な知識をもった上で、子どもの病気、加齢に伴う病気、また身体だけでなく精神的な問題について自ら学ぶ姿勢を持つことが大切です。「なぜか」という疑問を持ち、それを解決するため様々な専門職との会話が必須です。疾病だけでなく、母子保健対策、老人保健対策、精神保健対策など保健医療施策についての知識も求められます。人々の疾病予防、健康寿命の延長、介護やターミナルケアについても目を向けられるように考え、そしてまとめる力を付けましょう。</p>		
13. オフィスアワー	初回授業で通知		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	人体の構造と機能 (1) イントロダクション ①ヒトのからだの歴史 (生命とはなにか、比較発生学) ②生物と無生物 ③ヒトの臓器構成と機能について ④生命機能の究極の目標とは？	事前学習	学習ノートを用意してシラバスを熟読する。
		事後学習	ヒトのからだは5億年の進化の末に成立、生命の維持のため食と生殖があり、いずれも宇宙リズムに則り恒常性維持が目的であることを理解し学習ノートにまとめる。
第2回	人体の構造と機能 (2) ①からだの基本単位：細胞について ②ヒトの2系統の臓器群について (ヒトの植物器官系と動物器官系) ③機能からみた臓器の構造進化 ④ヒトの器官系の機能の連携	事前学習	生物としての人体の基本単位は細胞であり、その微細構造について図を得て理解する
		事後学習	細胞は臓器により特異的な機能を発現しており、ヒトの臓器の役割を生物進化の面から理解して学習ノートにまとめる。
第3回	人体の構造と機能 (3) ①ヒトの植物性器官の進化と機能 (消化・吸収系、肝臓・	事前学習	ヒトの体を構成する臓器の種類について予習をし、人体の臓器図を画けるようにする。

	脾臓・呼吸器系・循環系・腎尿路系・造血系・生殖系)。	事後学習	消化・吸収臓器(口・胃・腸)、栄養の運搬臓器(心臓・循環器系・造血系)、老廃物の排泄臓器(腎・尿路系)・生殖器との視点から個々の臓器を位置付けて機能を理解する。
第4回	人体の構造と機能(4) ①ヒトの動物性器官の進化と機能(感覚受容器)、皮膚、目・耳・鼻・舌、平衡感覚、感覚情報の伝達系(神経系)・脳、統合された情報の実施系(運動器系)、 ②こころの発達とあたまの発達とその対立	事前学習	ヒトの体を構成する臓器の種類について予習をし、人体の臓器図を描けるようにする。
		事後学習	ヒトの感覚器と情報伝達系としての神経系と情報統合臓器としての脳、運動実施系についてまとめ、図示できるようにする。「こころ」と「あたま」の在り方につき熟慮する。
第5回	主要な疾患の成り立ちと考え方 ①先天性疾患、性と疾患、加齢に伴う疾患、生活習慣病。 ②急性疾患と慢性疾患(肺炎・関節リウマチ)。 ③外因性疾患と内因性疾患(感染症・アレルギー性疾患)。 ④全身性疾患(膠原病)と臓器特異的疾患(肝炎)。	事前学習	病気をいろいろな側面から分類できることを予習し、学習ノートに記入する。
		事後学習	遺伝子の異常、偏った生活習慣の蓄積による疾患、病原因子が外部より侵入して生じる病気、特異な臓器に生じる病気と全身反応を呈する病気など、病気を様々な側面から考える見方を学び咀嚼して学習ノートに記録する。
第6回	病気によるからだの障害(1) ①症状の聞き取りと評価(コミュニケーション)。 ②症状から原因探る(発熱、咳、嘔吐、下痢、めまい等)。 ③身体診察(理学的診察・機能計測) ④検査(血液・尿検査、画像検査、生理検査、心理検査)	事前学習	どのような症状が病気に関連するの経験の中で挙げてみて学習ノートに記入する。
		事後学習	症状を漏らさず聞き取るための方法、病者が何に困っているのか、他者として客観的に症状を把握することを心掛ける点を記録する。
第7回	病気によるからだの障害(2) ①感染症(感染症の歴史、病気の種類) ②神経疾患・中枢神経系疾患 ③内分泌・代謝疾患 ④骨・関節・筋の疾患 ⑤免疫・アレルギー疾患・膠原病 ⑥血液疾患	事前学習	動物器官系とは何かを復習し、その障害により起こる病気について学習ノートにまとめておく。
		事後学習	外因因子による代表的疾患である感染症と伝染病の歴史を知り、動物器官系に関わる臓器の病気について理解を深めて学習ノートにまとめる。
第8回	病気によるからだの障害(3) ①呼吸器疾患 ②循環器疾患 ③消化器・肝胆膵疾患 ④腎・泌尿器疾患 ⑤生活習慣病	事前学習	植物器官系について復習し、その臓器ごとの病気について学習ノートにまとめる。また、メタボリック・シンドロームなど生活習慣病について学習ノートにまとめる。
		事後学習	消化器-呼吸器-循環器-腎・泌尿器など植物器官系の臓器病変について理解を深めて学習ノートにまとめる。
第9回	病気の治療と予防について(1) ①患者と治療に関して合意する(コミュニケーション)。 ②対象療法と根本治療。 ③さまざまな治療方法について(内科的治療・精神科的治療・外科的治療)。 ④他職種との連携(栄養士・心理士・リハビリテーション)。	事前学習	病気により治療の方法が異なることを学習ノートにまとめる。
		事後学習	さまざまな治療法があり、いずれの場合も患者との合意を得て行うこと、また、他職種の特徴を知りその連携を図りつつ、患者ファーストで治療をすすめることを学び学習ノートにまとめる。
第10回	病気の治療と予防について(2) ①肢体不自由、知的障害、発達障害の対応について。 ②悪性腫瘍の特徴と緩和ケアについて。 ③高齢者の認知症、高次脳機能障害について。	事前学習	肢体不自由、知的障害、発達障害などをもつ人が生き生きと生活するための治療・支援について考え学習ノートにまとめる。緩和ケアの考え方を調べて学習ノートに記載する
		事後学習	障害をもつ人への対応、悪性腫瘍と緩和ケアの考え方と実践方法、高齢者の認知症、高次脳機能障害などについて理解を深め学習ノートにまとめる。
第11回	人口動態と疾病構造の変化 ①わが国の人口動態 ②世界の人口動態 ③疾病構造とその変化及び将来の予測	事前学習	わが国及び世界の人口動態を読む力を涵養し疾病構造の変化と対応させるべく学習ノートに記入する。
		事後学習	わが国で少子高齢化がどのように進行してきたか、世界の動向はどうか、それに伴い疾病構造がどのように変化してきたかを統計資料等を加えて学習ノートにまとめる。
第12回	リハビリテーション ①国際生活機能分類(ICF) ②リハビリテーションの定義と目的・種類。 ③リハビリテーションの対象。 ④リハビリテーションの実際(PT、OT、ST)。	事前学習	リハビリテーションとは何かを予め調べて学習ノートにまとめておく。
		事後学習	体に障害を生じ関節の可動域を広げ筋力の低下を補い平衡感覚を涵養し、運動機能の回復、生活能力の改善、言語機能を含むコミュニケーション能力の維持・改善を図るなどリハビリテーションの全般につき理解を深めて学習ノートにまとめる。

第13回	疾病・障害に関わる社会保障制度と医療保障 ①社会保障制度と医療保障 ②医療保健（健康保険、国民健康保険） ③老人医療（老人保健法、後期高齢者医療制度） ④介護保険制度（介護保険法） ⑤国民医療費の経年的変化について	事前学習	疾病・障害に関わる公的医療保険制度につき 予め調査し学習ノートにまとめる。
		事後学習	公的医療保険制度につきその制度の意義を 理解し、公平でかつ困窮者を救う次世代の社 会的制度について考え、学習ノートにまとめ る。
第14回	公衆衛生の概要と保健医療対策 ①公衆衛生について ②母子保健対策と「健やか親子21（第2次）」 ③老人保健対策 ④精神保健対策	事前学習	公衆衛生の考え方を理解し、「健やか親子 21 （第2次）」の要点を学習ノートにまとめる。
		事後学習	公衆衛生の発想はどこに由来するのか、少子 化の中で母子保健の重要性を理解し、人口動 態より高齢者数の増加に対応した社会の仕 組みについて学習ノートにまとめる。
第15回	総合まとめ	事前学習	学習ノートをふり返りつつ、これまでの学び と考察から不明な点があれば積極的に質問 する。
		事後学習	期末試験の予備問題を解く。